

平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

D連携講座

D11～15：発掘！考古ゼミ

連携機関：県埋蔵文化財センター

会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室ほか

【趣旨】県内遺跡の最新の発掘情報から考古について学ぶことができる講座です。専門スタッフが、悠久の歴史ロマンの世界にいざないます！

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
D11	11月11日 (金)	払田柵を造る －奈良時代から平安時代初期の出羽－	払田柵跡調査事務所 調査班 副班長(兼) 宇田川 浩一 氏	31
D12	11月18日 (金)	横手盆地を経営する －平安時代の出羽－	払田柵跡調査事務所 調査班 副班長(兼) 宇田川 浩一 氏	32
D13	11月25日 (金)	県北の平安時代 －最近の発掘成果から－	中央調査班 班文化財専門員(兼) 谷地 薫 氏	27
D14	12月2日 (金)	発掘調査速報 東成瀬村トクラ遺跡	調査班 文化財主事 赤星 純平 氏	32
D15	H29年3月12日 (日)	平成28年度 秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会		240
				合計 362名

考古学的話題と、最新の発掘調査結果についてお話いただきました。

ここでは、3回目の講座について報告します。



最近の平安時代遺跡の調査として大館市の「片貝家ノ下遺跡」「片貝遺跡」について、県北の平安時代前期の特徴として「元慶の乱」「十和田噴火と胡桃館埋没家屋」について、そして遺跡から見た十和田噴火と災害についてお話いただきました。片貝家ノ下遺跡の遺構には、平安時代竪穴住居の立体的な屋根の痕跡が見られ、粘土をかぶせていることが判明。加えて、発掘箇所のスライドを全体的に眺めながら、土の色や高さ・くぼみに注目していくと、建物の構造の違いや、屋根構造の手がかりが得られ、竪穴住居の構造の理解につながったそうです。また、遺跡全体の地形の高低差に注目すると、米代川流域で水田の畦畔やそれより高い位置の水路が初めて発見されました。この時代に生きる人たちの高い知識と技術に驚かされるばかりです。

受講生からも「古代の人はすごい！の一言につきる。」などの声が寄せられました。